

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標 「ふるさとを愛し、夢や希望を持って、たくましく生きる児童」の育成							
基本方針 児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。							
本年度重点目標 1 確かな学力の定着と向上 2 学校全体で進める生徒指導・特別支援教育の充実 3 ふるさと学習の推進 4 学校運営協議会の充実・発展 5 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D C	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
	<p>(成果と課題)</p> <p>○全教職員で共通理解を図り、あらゆる教科で、ねらいを明確にした話し合い活動や調べ学習を取り入れたり、一人1台端末を効果的に活用したりすることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めることができた。</p> <p>●児童の主体的な家庭学習習慣の確立に向けた取組が不十分である。</p> <p>●前期と同様、読書に関する評価が低い。特に保護者の評価が低いのは、児童が家庭で読書をする姿が見られないからだと考えられる。家庭での読書の習慣化を図る取組が必要である。</p>						
	<p>(改善策等)</p> <p>・主体的な学習習慣の確立を目指し、家庭学習での自主学習ノートの活用を推奨していく。具体的な活用方法を示したり、模範的なノートを紹介したりすることで、児童や保護者が学習を選択しながら意欲的に取り組めるようにしていく。</p> <p>・授業に関連した読書や調べ学習を家庭学習とし、電子図書を活用させたりすることで、家庭での読書の場面を増やしていく。また、親子読書週間などを企画し、親子で読書を楽しむ機会を設けることで、読書への関心・意欲を高めていく。</p>						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	A C	C	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	C C		
	<p>(成果と課題)</p> <p>○校内の協力体制が確立しており、児童や保護者に対して組織的に指導や対応をすることができた。</p> <p>●児童の自己肯定感や自己有用感を向上させる取組について、教師が意図的な工夫をしながら実践することはできていない。しかし、児童の意識に顕著な向上は見られない。</p>						
	<p>(改善策等)</p> <p>・「児童の良い点やできたことを認め、褒める」ことを常に意識しながら、自己肯定感や自己有用感を向上させる取組を継続して行っていく。その中で、より効果的な取組について共通理解を図り、全校体制で実践をしていく。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
			・教師アンケート	C	C
③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題) ○諸問題に対する相談体制が構築できており、情報を共有しながら組織的な対応をすることができた。 ●後期は、学校体育や音楽会の指導がある時期に、1か月あたり80時間以上の超過勤務となった教職員がいた。</p> <p>(改善策等) ・放課後や休業日の指導が、特定の教職員に偏ったり、過度な負担になったりしないよう、役割分担や休業日の設定等を考慮して計画を立てていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題) ○学校運営協議会に全教員が参加し、来年度以降の活動について、学校運営協議会委員と意見交換することができた。 ○ホームページを毎日更新したり、学校だよりや学級通信を定期的に発行したりすることで、学校の教育活動を家庭や地域に発信することができた。</p> <p>(改善策等) ・今後も、学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員との連携を深めながら、学校運営協議会の充実に努め、学校運営に生かしていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満